

# えりも風景林

日高南部森林管理署

## 【えりも風景林の特徴】

えりも町にある「えりも風景林」はアイヌ語で「エンルム」突き出た頭を意味する丘陵地形となっています。かつて、えりも地区の海岸林は、明治時代の開拓に伴う森林の伐採や家畜の放牧により荒廃し砂漠化が進んだため、地元の町や住民から緑化の要望が高まり、昭和28年に緑化事業が開始され、地元住民の協力を得つつ行われてきました。えりも地区は寒さや風の強さに加え、霧の発生が多いため日照が不足し、植物の生育には極めて厳しい環境であるため、緑化事業は困難を伴いました。しかし、海岸に打ち上げられたゴタ（雑海草）を、地表の乾燥防止や肥料として活用するなど、さまざまな試行錯誤が重ねられてきた結果、事業開始から70年以上が経ち、現在は草本類や木本類が生育する森林に覆われています。

えりも国有林治山事業の詳細は、下記のホームページでご覧いただけます（日本語）。

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/hidakananbu/conservation.html>

## 【気候等】

えりも地区は、年平均風速8.3m/sと、風速10m/s以上の日が年間260日以上あり、屈指の強風地帯です。また、年間の濃霧発生日数は100日を超え、5月から8月の月平均濃霧発生日数は約20日とされています。



えりも管理棟 (百人浜)

## 【楽しみ方】

百人浜にある展望台や地上 13m の管理棟からは、緑化事業により砂漠状態から蘇った森林の様子が一望でき、遊歩道は木道や木質チップが敷かれていて、大変歩きやすくなっています。

また、えりも岬を中心とする一帯の国有林全域が日高山脈襟裳十勝国立公園に指定されており、豪壮な岬の断崖と岩礁が連なっています。さらに、周辺には日高耶馬溪や黄金道路、悲恋沼など、多くの景勝地があります。

みどり館（林業総合センター）では、当時の手作り道具の展示、パネルや DVD により緑化の歴史を紹介しています。

管理棟から百人浜

百人浜オートキャンプ場

遊歩道とキタキツネ

風の館

## 《百人浜までのアクセス》

○新千歳空港→道央自動車道→

日高自動車道：新冠IC→

えりも風景林（180km／3時間 20分）

・海岸線を眺めながらのドライブがお勧めです。

